

岡山県立津山東高等学校学校運営協議会 第1回会議 議事録〔概要版〕

令和4年6月9日（木）15:00~16:30

津山東高校会議室

○出席者 委員10名（校長含む）中7名が出席 学校側出席者：教頭2名・事務部長

○決議事項

（1）会長・副会長の選出

会長 安田純（美作大学生生活科学部教授） 副会長 小林新一（（株）マルイ取締役副社長）

（2）令和4年度学校運営計画及びスクール・ポリシーの承認

〔協議の概要〕

（委員）コロナ禍で実習機会が減っているのではと心配しているが、改善状況はどうか。

（校長）看護科・専攻科の臨地実習は、令和2年度は当初計画の40%程度しかできず、校内実習などに切り替えたが、今年度はほぼ計画通り実施できている。食物調理科の校外実習も、令和2年度は実施できなかったが、昨年度と今年度は計画通り実施できた。いずれも受け入れてくださる実習先のご協力のおかげであり、地域の皆様に感謝している。

（委員）学校経営計画の中で、主体的・対話的で深い学びが生徒の進路実現に繋がることを重視していると校長から説明があったが、昨年度の進路実績をどのように分析しているか。

（校長）大学進学については、国公立大学合格者数だけがバロメーターではないが、過年度卒を含めた国公立大学合格者数は過去最多であった。進学指導力が向上したことの現れと分析している。専攻科は看護師国家試験全員合格を達成し、食物調理科は専門性を生かした就職が好調で、大学へ進学して管理栄養士を目指す生徒も合格を果たすなど、所期の目標をほぼ達成できたと考えている。

（委員）スクール・ポリシーについて、食物調理科と看護科は専門性もありポリシーが作りやすいが、普通科は難しいように思う。普通科のポリシーは何を基準にして策定したのか。

（校長）普通科は幅広く教養を身に付けることを目的とするため特徴を出しにくいと言われているが、本校は、行学を柱に、地域の教育力を生かした教育活動に注力することをポリシーにしている。生徒が地域の課題に向き合い、解決策を提案し、プレゼンすることを通して、社会性やコミュニケーション能力、自己肯定感などが身に付いている。そして、こうした学びが次のステージ（大学等での専門的な学び）につながるよう、主体的・対話的で深い学びの実現を今後も行っていきたいと考えている。

（委員）実習や行学など、東高生は本当によく頑張っている。親も共に育っていかないといけない。PTAとしては、親のための講演会を行いたいと考えている。例えば、生徒に講師になってもらい、生徒が行っていること、考えていることを知ることも大切ではないか。生徒・保護者・学校・地域が一体となれるように支援したい。今コロナ禍で、懇親会ができず、本音で語り合える機会が少なくなっているが、東高PTAは通常の会議や奉仕作業などで円滑に活動できている。良いスクール・ポリシーができている。多くの人に見てもらいたい。また、保護者の方にも見てもらいたい。「校誌東雲」には、学校経営計画書は掲載して

あるので、次号からはスクール・ポリシーも掲載してほしい。生徒にも浸透させたい。

(校長) そのようにしたい。なお、スクール・ポリシーは文字量が多くて暗記できないが、本校では校是「行学一如」とキャッチフレーズ「殻を破ろう、人と繋がろう」を定めており、私もことあるごとに生徒に示している。この理念を「行学」などに繋げている。

(委員) 最近の東高生は、挨拶をすると気持ちよく返してくれる。これからも通学路に立っていき
たい。